

第 17 回技術情報検討会議事概要

1. 日 時:平成27年11月16日(月) 10:00~12:15

2. 場 所:原子力規制委員会13階 会議室 B

3. 出席者:

原子力規制委員会

更田委員

原子力規制庁

安井技術総括審議官、櫻田原子力規制部長、大村緊急事態対策監、山田審議官、青木審議官、青木安全規制管理官(BWR)、山形安全規制管理官(PWR)、澤田安全規制管理官(発電炉検査)、黒村安全規制管理官(新型炉・試験研究炉・廃止措置)、片岡安全規制管理官(再処理・加工・使用)、前川安全規制管理官(廃棄物・貯蔵・輸送)、森田全規制管理官(地震・津波安全対策)、倉崎技術基盤課長、鬼沢安全技術管理官(システム安全)、梶本安全技術管理官(シビアアクシデント)、内田安全技術管理官(核燃料廃棄物)、高松安全技術管理官(地震・津波)、迎企画調整官(技術基盤課)、田口首席技術研究調査官(システム安全)、中島首席技術研究調査官(システム安全)、船田技術参与(システム安全)、山手首席技術研究調査官(核燃料廃棄物)、二宮品質管理専門官(廃棄物・貯蔵・輸送)、河合管理官補佐(再処理・加工・使用)、阿波安全審査官(PWR)、角谷係長(規制企画課)

事務局

佐藤原子力規制企画課長、石井企画官、小林課長補佐、帯刀課長補佐、伊藤専門職

4. 議題: (1)技術情報の検討について
(2)その他

5. 議事要旨

(1)事務局より、議題(1)「技術情報の検討について」について、資料の順に従って説明した。

○事務局より、「第16回技術情報検討会議事概要」(資料17-1)、「スクリーニングと要対応技術情報の状況」(資料17-2)及び「2次スクリーニングの検討状況」(資料17-3)について説明があり、了解された。

○「燃料サイクル施設における未解析の状況及び IROFS の予期せぬ使用不能を伴う臨界・化学安全事象」について(資料17-4)

- ・ IN で指摘されている未解析の状況は、ISA を実施しても事故シナリオに抜けが出るということ。日本で ISA を実施する場合にハザード解析はどうあるべきかを考える必要がある。
- ・ 日本の ISA では、起因事象と潜在事故を体系的に抜け落ちなく抽出することを目標にハザード解析手法に関する安全研究を行ってきた。

- ・ 本件は、要対応技術情報として処理し、以下の対応を図る。
- ① 本文にある「(2)回収トレイ洗浄時の未解析状態」と「(3)サーモウェルとジャンクションボックス内への核物質侵入事象に関する未解析の状況」については、事業者と面談を行い、周知及び対応状況の確認を行う。
- ② 加工施設の安全性向上評価のリスク評価・内容の妥当性を評価するためのガイド等の作成については、技術基盤課と規制企画課で連携をとり、安全性向上評価のスケジュールを加味した上での作成スケジュールを明確にしつつ対応していく。

○「使用済燃料貯蔵設備の臨界安全評価に関する審査ガイド整備の検討」について(資料17-5)

- ・ 使用済み燃料プールの審査が現在も進められていることから、本件にあるガイド作成については、スケジュールを明確にすべきである。
- ・ 原子力学会に使用済燃料貯蔵施設の臨界安全評価に関するガイドの作成を働きかけると言う選択肢も存在する。
- ・ 本件は、安井技総審を中心に、規制での必要性、スケジュール管理、基盤 Gr の人的資源等を考慮した形で整理し、次回(第18回)技術情報検討会にて報告する。

○事務局より、「要対応技術情報リスト(累積)」(資料17-6)について説明があり、了解された。

○事務局より、「1相開放事象への対応状況の報告」(資料17-7)について説明があり、了解された。
引き続き、技術基盤課と規制企画課にて連携し、規制要求等の必要性について検討していく。

○安全技術管理官(システム安全担当)付より、「フラマンビル3号機(EPR)におけるRV材料(上蓋、下鏡等)の鋼材組成に関する問題」(資料17-8)について説明があり、了解された。

○技術基盤課より、「技術基盤グループが収集した最新知見等について」(資料17-9)について説明があった。

・ DS483「原子力発電所におけるシビアアクシデントプログラム」(NS-G-2.15の改訂版ドラフト)について、規制庁内での情報共有を目的として、説明会を設けることとした。

○事務局より、1次スクリーニング結果(参考資料17-1)について説明があり、了解された。

(2)その他

○次回技術情報検討会は、平成27年12月21日(月)若しくは翌年1月下旬に開催の予定とした。

以上